

職業理解ガイダンス 5時間目ハイライト

3月8日5～7限に1年生を対象に「職業理解ガイダンス」が行われました。
(看護学科は5限のみ実施) その様子を紹介します。

■仕事・資格 77+3 パズルワーク (MS・総合福祉・普通科生徒対象)



▲多くの仕事・資格を広く知ることを目的として行われたパズルワークに真剣に取り組む生徒たち

77種類の仕事・資格の説明を明記したシートと、80種類の仕事・資格カードを組み合わせたパズル形式の講座でした。77種類の仕事・資格に当てはまらない「残り3枚」のカードを選び出すことができるか?楽しみながらチームで協力して作業しました1900種類の職業があります、今後減少していくと予想されています。まずは、どのような仕事があるのか知ることからはじめてみましょう。

【参加した生徒の感想】
名前しか知らなかった職業や名前すら聞いたことのない職業が多くあったのでそれらについてゲーム感覚で知ることができて良かったです。ゲームをする中で、僕の知っていることはほんの一部だということを実感しました。ちょっと違っただけで仕事内容は似ていても職業名は全然違うんだなと感じました。
一万種以上の職業が存在することを知り、その中から自分の将来の職業を決めることはとても凄いことで、すごく難しいことだなと思いました。これからはもっと職業について調べて慎重に進路を選ぶようにしたいです。

「世の中には
いろいろ職業がある?」

■看護学科講演会 医療法人社団高邦会 高木病院 (看護学科生徒対象)

「看護師に求められるものとは?」

医療法人社団高邦会高木病院(福岡県大川市)の西村貴子副看護部長に「看護師に求められるもの」というテーマで講演をしていただきました。
ナイチンゲールの著書『看護覚え書き』の中の一節、「自分自身は決して感じたことがない他人の感情のただ中へ自己投入する能力をこれほど必要とする仕事は他に存在しない」という言葉を紹介され、「看護師とはまさにこの言葉そのままだと思います。看護師には、患者さんが何を感ず、どんな痛みをもっているかを、表情や言動、あらゆる変化から読み取る力が求められます。だから、学生のうちから周りの人にしっかりと向き合い関わりましょう。『なぜその人はその言葉を発したのか』『その言葉の裏にどんな思いがあるのか』など、物事の真の姿を理解しようとしてよく見、観察することが大切です」と話されました。
看護を学ぶ学生として、今のうちから心がけておくべきことなど具体的に話をしていたいただき、生徒たちも熱心に耳を傾けていました。



▲ナイチンゲール著
「看護覚え書き」

【参加した生徒の感想】
講演を聞いて、自分で人間関係を狭めるのではなく、色々な人と向き合おうまく関わっていきけるような人になりたいと思いました。
また、短所は長所にもなると言われたところが心に残りました。自分のそんな部分を探していきたいです。



▲「生涯学び続ける姿勢が大切」というお話もありました。現場の様子を教えていただく貴重な時間になりました。

職業理解ガイダンス (23 講座) 6・7時間目ハイライト

大学や専門学校の先生方を講師に迎え、具体的な仕事内容や資格、適性について説明を聞き、体験しました。また、本校の卒業生もゲストティーチャーとして講座に参加し、後輩たちの質問に答えてくれました。講座の一部をご紹介します。

■「3D画像処理体験」～診療放射線技師～ 鹿児島医療技術専門学校 平原先生・宮本大地さん (本校卒業生)



Q.診療放射線技師とは??

A.医師や歯科医師の指示を受け、検査や治療のためにX線やそのほかの高エネルギー放射線を人体に照射する医療技術者。患者さんの臓器を撮影し、医師が診断や処置をしやすいように撮影画像を処理することも仕事の1つ。

【生徒感想】

放射線技師に関することを学びました。卒業生の宮本さんが「勉強は、高校より大変。実習も多く、画像処理などたくさんのことを学ばなければならない。就活の時期や就職先もふだんどれだけ努力して良い成績を修められたかによって変わる。大変だけど、やりがいもあり女性の需要が高い職業でもある。」と仰っていました。

レントゲン写真の画像処理体験「人体を切る」という、体験をもさせてもらい、とても興味深かったです。



パソコン上で、撮影した画像を処理していきます。▶



■「意外と知られていない『救急救命士』のあれこれ」～救急救命士～

熊本総合医療リハビリテーション学院 仮屋先生

【生徒感想】

救急車で応急処置をして病院に運ぶのが救急救命士の仕事だとイメージしていましたが、それだけでなく仕事内容も幅広く、働く場所も様々だということを知りました。点滴の実技もさせていただきました。腕の模型でしたが、いろいろなことに注意しながら針を刺すのは緊張しました。普段はできない貴重な体験ができて良かったです。



Q.救急救命士とは??

A.病院や診療所に搬送される途中の傷病者に救急救命処置を施すスペシャリスト。止血処置や脈拍の測定といった一般的な医療活動はもちろんのこと医師の指示を受け、点滴や気道の確保などの救急医療行為を行うこともある。

▼参加してくれた本校卒業生の皆さん



座談会の模様は
また改めて紹介します!

右から順に…

- 有村 拓哉さん (鹿児島工学院専門学校 1年)
- 桑原 有未さん (九州保健福祉大学 1年)
- 今村 真子さん (作業療法士 けんなん病院)
- 中村 楓さん (鹿児島国際大学 4年)
- 坂元 涼夏さん (鹿児島大学 1年)
- 宮本 大地さん (鹿児島医療技術専門学校 3年)

*写真は3D画像処理に掲載

編集後記

先日、南九州市頰娃町の別府中学校で閉校式が行われました。生徒代表の三年生は「今日は終わりであると同時にスタート。思い出と友情、誇りを持ち、堂々と前に進みたい」と述べました。四月から青戸・頰娃両中学校と統合し、新生、頰娃中学校となります。

平成とともに閉じる学び舎とは何とも感慨深いものです。しかし、先述の前向きな言葉が、中学生たちの背中を押してくれることでしょう。

「これからは、これまでを決める」とは、前号で卒業生に贈る言葉として紹介しました。きっと、中学生たちも「これから」の思い出、友情、誇れることをさらに構築していくものと思います。

さて、進級する新二・三年生の皆さん、「これから」のことに思いを巡らしているでしょうか。一日に卒業した先輩たちは、既に新たなスタートを切っています。

福祉施設では、入職前研修が行われており、厳しい指導が連日続いていると話してくれた総合福祉科の卒業生がいます。「命を預かる現場だから当然です」と前を見据えていました。

四月には一年生が入学し、五月には平成から新元号となります。日本も、鳳凰高校も「これから」のステージが待ち受けています。皆さんの「これから」を学校はサポートします。

「学問に王道なく人生に近道なし」